事業の実績
1. 令和3年8月　視線計測装置「Tobii Pro ナノ」購入 2. 令和3年9月　同装置を使用しての科研研究を申請 3. 令和3年10月-現在　同装置の研究室における導入準備 4. 令和4年2月　科研基盤研究C「日英コーパス分析と実証実験の実施による英語学習項目優先度設定への試み」採択通知受領

具体的な成果
本事業の目的は、英語学習者の心の中での言語情報をモデル化するの一環として、学習者の英文処理過程を観察するための視線計測装置を導入することで、心理言語学研究の拠点としての研究教育環境を充実させた上で、ゼミ生と共に研究実践を行うことである。 令和3年度は、受託した研究費にて、視線計測装置の購入、および、導入の準備を行った。なお、視線計測装置の導入方法については書籍等の情報がなく、希少であるため、インターネットで情報検索をしながら、試行錯誤での準備が続いており（現時点では視線計測装置のパソコンへの接続は終了し、心理学ソフトウェアとの接続についての試行を行なっている）、令和3年度内に予定していた研究実践、及び、ゼミ生への開放については令和4年度以降に行うこととなる。 また、令和3年9月に申請した、同装置の使用計画を含む科研費研究が採択されたという連絡を令和4年2月末に受けた。科研費によって、謝金を支払っての大規模な研究を（外部リソースも活用した上で）効率的に実施することが可能になるため、今後は、学内・学外から研究参加者を多数募った上で、申請した研究テーマに長期的に取り組んでいく予定である。具体的には、日本語と英語のコーパスから抽出した英語の（have a cold, look good, go to school などの）動詞―目的語、補語、前置詞句等の共起パターンの難易度の読解プロセスにおける影響について、視線計測装置を用いることで、どのような共起パターンの読解が困難であるかを探索していく。 ゼミにおいては、現在、英単語や英文を提示して、その反応時間を測定するタイプの研究を行なっているが、視線計測装置の設置により、読解のプロセスの解明も含めた、より総合的に心理言語学研究を体験できる体制を整備し、学生の興味・関心に寄り添えるような環境を整えることで、学生の教育、学生募集に役立てていく予定である。